

2019年度レーザ機器取扱技術者試験を実施

当協会は、2019年度（第30回）レーザ機器取扱技術者試験を2019年12月11日に東京・芝公園の機械振興会館にて実施した。

レーザ応用機器の普及に伴いレーザ機器の製造、調整、使用等に携わる人が増え、また、レーザ機器の適用の拡大に伴って一般の人にも危険を及ぼすような使用分野も出現してきている。これらの動きを受け、当協会はレーザ機器取扱安全に関する十分な知識を普及・啓発していく事業（例えば「レーザ安全スクール」の開催）を行うとともに、1990年度からレーザ機器取扱者に対する試験制度を発足させた。

この試験の趣旨は、レーザ機器の取扱いに起因する危険および障害を防止するために、レーザ機器の取扱者、安全管理者および安全技術者に必要とされる知識水準を審査し、試験合格者を当協会に登録することで、レーザ機器の取扱いの安全化を促進するとともに、レーザをはじめとする光産業の健全な発展を支援することにある。

全国からの受験者153名（昨年170名）が集まり、3会場で午前・午後それぞれ2時間ずつの試験が行われた。受験者の内訳は、レーザに関する総合知識およびレーザ光の危険性と安全法規の知識を有しているかを試験するレーザ安全管理の「第1種選択1」が12名、同じくレーザ安全技術の「第1種選択2」が13名、また、レーザ安全の基礎的知識を備えているかを判定する「第2種」が128名であり、今年はレーザ安全管理者としての知識を問う「第1種選択1」の受験者が増加した。年々増加傾向であった第2種の受験者数は減少したものの、100名を超える数の受験者となっており、レーザ利用機器が増え、それを利用する場面も引き続き拡大していると考えられる。

合否に関しては今後、レーザ機器取扱技術者試験委員会の厳正な採点、審議を経て、2020年2月中旬に合格者発表を行う予定。

